

津村泰範 / 北雄介

TSUMURA Yasunori / KITA Yusuke

キーワード  
与板、蔵、日本茶カフェ、リノベーション

Keywords  
Yoita, Storehouse, Japanese Tea Café, Renovation.

The authors and six students participated in a project to renovate a Meiji-era storehouse in Yoita, Nagaoka City, into a Japanese tea café.

We sought ways to be involved in such a project. This is a report on the project.

### はじめに

2020年暮れ、田中清助商店の田中洋介氏より、筆者らに以下のような相談があった。

- ・現状、通りに面したお店ではお茶の物販のみをしているが、奥にある蔵をリノベーションして日本茶カフェにしたい。
- ・蔵の手前にある一部屋に調理室（菓子製造と喫茶店営業の許可あり）があり、そこでスイーツ及びお茶を調理し、客席スペースである蔵に運ぶフローを考えている。（蔵には給排水設備はなく、客席スペースとしてのみの利用）
- ・蔵をどのようにカフェ化していくかを悩んでいる。建物の良さを残しつつも、飲食スペースとしての清潔感やおしゃれ感を出したい。

そこで、2021年2月24日に、筆者らで

お伺いし現地見分をしたところからこのプロジェクトはスタートした (fig.1)。

### 1. カクタ田中清助商店の蔵について

与板の旧街道沿いの中心市街地は、間口が狭く奥行き長い敷地に、通りに面して切妻屋根の妻側を向ける町家がいまでも建ち並んでいる。カクタ田中清助商店は、与板仲町にある店舗併用住宅で、ファサードはある程度改装されているが、明治16(1883)年の建造という\*1 (fig.2)。西側が正面で東に向かって奥行き長い主屋の南側に通り土間があり、主屋を抜けると2棟の土蔵の蔵前となる。手前は切妻妻入で、奥は切妻平入の土蔵である (fig.3)。この奥の土蔵を日本茶カフェにリノベーションしたいとのことだ。

この蔵は明治にできた蔵とのことだが、記

録は残っておらず、棟札や棟梁の墨書などもない。だが、蔵の中に打ち付けてある板に「四〇・一〇・一二 新蔵 [カクタ]」と縦書きで書いてある (fig.4)。もちろん年号が書かれておらず、筆書きではなくペン書きに見える、昭和の可能性も西暦の可能性もあるが、明治40(1907)年の建造ということであれば、口伝と符合するとも考えられる。また、柱や壁の板に、おそらく建造時の番付と思われる「いろは…」と漢数字の組合せが直書きされた墨書が多く見られた (fig.5)。

### 2. プロジェクト概要

#### 2.1 現状調査

2月の見分で、目視による簡易な診断を行い、経年相応の劣化はあるものの、そもそもきちんと造られており、外壁の一部の損傷も



fig.1 筆者らの現地見分状況



fig.2 カクタ田中清助商店正面 (西面)

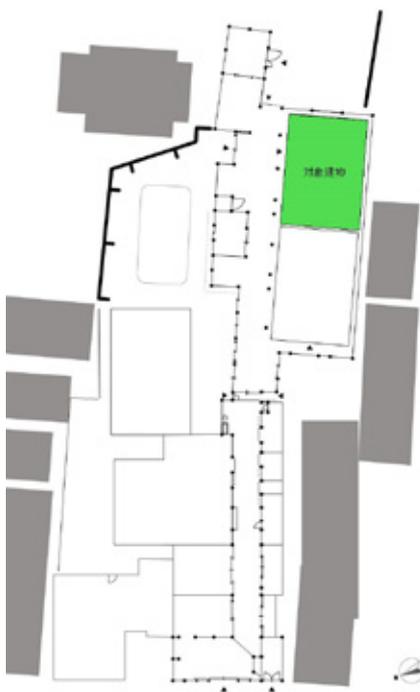


fig.3 カクタ田中清助商店配置図 (概略: 学生作成)



fig.4 (上左) 文字が書かれていた板

fig.5 (上右) 土蔵内部 (内壁豎羽目板) の墨書

構造的には全く影響がなく、今後の使用に關しても特に問題はないことを確認し、田中氏に伝えた。学生有志とできる範囲でカフェを具現化することを検討した。

年度が替わった2021年4月9日、「ボランティア実習」とすることとした。建築・環境デザイン学科3年生有志6名\*2をメンバーとし、現地へ向かった。顔合わせののち、田中氏から依頼内容の説明を受け、進め方とスケジュールの検討を行った。

5月17日に建物の現状の把握のため、実測調査を行った。明治期の建物なので、当然設計図は存在しない。そのため、現状の形状と寸法を実測し、図面化する。1階、2階に分かれて作業したところ、田中氏より、「カフェをしたときの賑わいのイメージが掴めた」との意外な感想を得られた。第三者による調査作業は、その建物の所有者・管理者にとって、活用のイメージづくりとして有効かもしれない (fig.6,7)。また、この作業をすることで、それぞれが隔々まで細かく見ることになるので、破損状況や改変の履歴を辿る根拠となる痕跡などが発見される。2階の一部に棚を付加した程度で、ほとんど建造時から改変がなされていないことが分かった。

ここの特徴は2階の床に取り付けられて

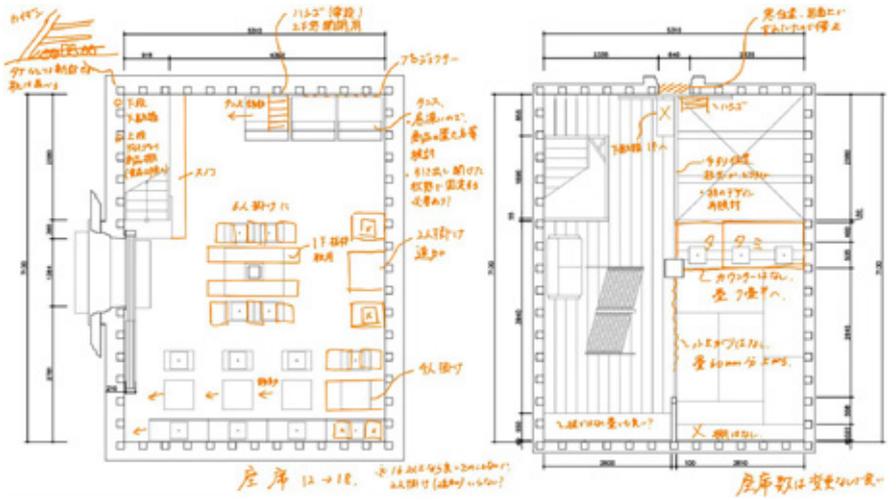


fig.11 平面案の検討 (学生作成)

いる換気のためと思われる格子床の格子の方向が、床板の並び方と平行でも垂直でもなく、斜めに配されている。この独特な角度によって得られる上下階の空間の交錯は、いろんな表情を見せ、この蔵の一つの大きな魅力となっている。おそらく棚の配置等の関係で機能的に偶然つくられた形状であろうが、ここはこのまま残したい、というより、むしろ活かしたいというのが、関係者共通の見解となった (fig.8)。

6月17日に補足調査を行った。実測野帳を持ち帰ってCADで清書した際に気づいた調査漏れ箇所などの確認をした。5月の調査では対象建物単体で時間切れになってしまったので、敷地内の他棟との関連や隣地との境界も含めた敷地全体の調査を行った (fig.9,10)。

こうした調査で、改修の計画の与条件を見出す検討がはじめて着手できることを体験することが狙いである。ただ闇雲に歴史ある既存の空間を現代風にアレンジせずに、どこなら手を加えて良いか、また手を加えることでどういう効果があるか、どうすれば空間の魅力の向上ができるかを考える一歩である。

## 2.2 リノベーション案の検討

現地調査を踏まえて、類似事例の調査なども行い、1、2階の室内レイアウトと蔵カフェまでのアプローチを含む敷地全体の計画案を検討し、7月15日に現地で打合せを行った。改めて田中氏より事業計画の説明を受け、学生側が計画案のたたき台を提示した。それを受け、以下のように案が固まってきた。



fig.6 実測野帳作成の指導の状況 (5/17)



fig.8 作業状況 (5/17) ※右奥に斜めの格子床



fig.10 作業状況 (6/17)

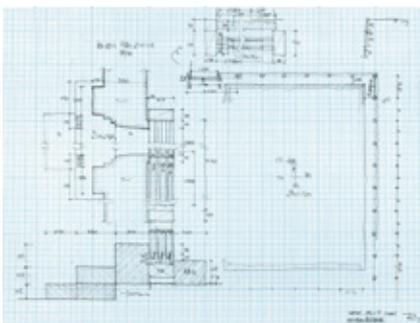


fig.7 作成した実測野帳 (5/17津村作成分)



fig.9 作業状況 (6/17)



fig.12 試食の状況 (8/25)



- ・蔵1階は机&椅子（土足）
- ・2階は畳敷きも視野に入れる（靴脱ぎ）
- ・2階一部の床板を外し、吹き抜けをつくる（斜めの格子床はそのままとする）
- ・茶箱や和箆筒や卓卓、建具など、蔵に今あるものを棚や仕切りとして再利用

細かいレイアウトや照明計画などは改めて詰めていくものの、大きな方向性は見えてきた (fig.11)。

学生たちは与板周辺を散策してデザインのヒントになるものを調査した。また8月8日には参考になる空間要素を探求しに長野県小布施町に学生たちだけで調査に行った。

こうした作業を経て、第2案を作成して、8月25日に現地で発表した。また実際に提供するカフェメニューについても試食させていただき意見交換をするなど、より具体的な局面に踏み込んだ (fig.12)。

### 2.3 リノベーション案のまとめ

提案に対して改めて田中夫妻からのフィードバックをいただき、より現実的に提案をまとめなおし、10月1日に最終発表を行った。この提案を田中夫妻に受け取っていただき、ここで、「ボランティア実習」としてのこの

プロジェクトは完了した (fig.14)。

### まとめ

大学の研究室はリノベーション設計監理業の事務所ではない。もちろん筆者らは資格保持者であるし実務経験もあるが、実務ではない範囲でどの程度関与するかを模索した。

「ボランティア実習」として関わられるのは、現状を調査し、要望を踏まえつつ計画検討して案を作成するにとどまる。それをどこまでどう採用するかも所有者に委ねられる。また、実施設計や施工まで踏み込むと、工事中の安全管理や、完成後供用した際の責任問題が生じる。最近大学に学生のDIYによるリノベーションの依頼が来るが、安易に引き受けるとなれば、と思う。今回のスキームは、もちろん依頼主と筆者らの信頼関係が構築できたことにもよるが、工事も含めた体制づくりや事業マネジメントは依頼主自らが行う前提で進められたこと、我々はそれをサポートすることに徹したことが、現時点では特にトラブルなく至っていることに繋がると思う。

ただ、学生にとっては、具体的に完成していく過程を体感することも重要ではある。

### その後

実は、「ボランティア実習」は完了したが、新たに設けた2階吹き抜けの転落防止柵と既設階段に設置する手摺は、学生たちのアイデアをもとに筆者が簡易な施工図を描き、田中氏が依頼した本田建築さんと打合せをして施工した。学生たちはその打合せの過程に参加して、自分たちの描いた絵を具現化するプロセスの一端に触れることができた。また、木部塗装の色調の決定、照明の選択、結果的に畳敷きとなった2階の置き畳選びや設え作業には参加しながら空間づくりを行った (fig.15～17)。

2022年1月頃まで設え作業のやり取りを続けたが、田中夫妻はその後準備に奔走し、同年5月26日にオープンを迎えた (fig.18)。まだまだ大変だと思うが、これから与板の素敵な憩いの場となることを願う。そこに少しでも関わることのできた縁に感謝したい。

\*1 秋山祐亮/西村伸也/小林成光：与板の町家における室空間構成に関する研究 住戸間隙の共用「ダシアイ」と室空間の特性について、日本建築学会北陸支部研究報告集 Vol.53, pp. 595-598, 2010.

\*2 メンバーは192008 栗林優花、192019 佐野菜々緒、192029 竹高垂海、192050 三好真由、192051 柳珠実、192056 渡辺瑠花の6名



fig.16 置き畳を敷く位置決め状況 (新聞取材)



fig.18 日本茶蔵カフェ「茶々いま」チラシ



fig.15 設置する転落防止策の適した寸法の確認



fig.17 関係者だけのプレオープン